

2026 年 8 月 7 日
ライオン株式会社

2026 年度 第 2 四半期決算説明会
アナリスト質疑応答（要旨）

【中東情勢の影響と対応策について】

Q：原材料価格高騰による業績への影響とその対応策は？

A：原材料価格の影響は、年初想定 of $\Delta 10$ 億円（利益減）に対し、中東情勢の影響でさらに $\Delta 60$ 億円の追加（上期 $\Delta 10$ 億円、下期 $\Delta 50$ 億円）を想定しています。これに対し、10 月に国内で実施予定の一部製品の値上げや国内外での高付加価値化の推進、追加のコストダウン施策によって粗利の改善を中心に打ち返しを図るとともに、海外のホームケア事業を中心に競争費用の効率化も進め、年初業績目標の達成を目指します。

Q：値上げによる増益効果について、計画通り実現可能か？

A：出荷価格の引上げが店頭価格に反映されることが重要であり、そのために流通の価格改定時期に合わせて実施するよう準備を進めています。値上げによる一定の数量影響は見込んでいますが、想定した増益効果の実現可能性は高いと考えています。

【一般用消費財事業について】

Q：国内オーラルヘルスケアの売上が好調のようだが、下期も継続する見込みか？

A：上期はハミガキ・ハブラシの高付加価値品の伸長に加え、歯科ルート品が二けた成長するなど、全体として好調に推移しました。下期につきましては、昨年発売した高価格帯新製品の寄与が一巡することに加え、値上げに伴う一定の数量影響が想定されますが、高付加価値品の育成や強化を着実に進めることで、店頭ベースでは市場平均を上回る成長を目指します。

【海外事業について】

Q：ベトナム、オーストラリアの新規連結効果について、利益への貢献額は？

A：数量効果・構成変化等の粗利増+97 億円の約半分が新規連結効果によるものです。オーストラリアについては、株式取得に係る一時費用が発生しているため、今期の事業利益への貢献は限定的となります。

【来期の業績について】

Q：2027 年の業績に対する原材料価格の影響は？

A：現状のコスト環境が継続した場合、2026 年下期と同等の原材料価格の影響が 2027 年上期まで継続すると見えています。値上げによる効果が 2027 年上期まで継続して寄与することでこの影響を打ち返すとともに、オーラルヘルスケアを中心とした高付加価値化によるミックス改善、海外主要国における利益ある成長の推進を通じて、中計最終年度の事業利益目標 400 億円の達成を目指します。

以上

【注意事項】

本資料で記述している内容は、決算説明会の質疑をもとに要約した当社の見解であり、その情報の正確性、完全性を保証するものでなく、今後、予告なく変更される可能性があります。

また、将来予測や業績見通しなどに関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではありません。

そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる可能性があることを御承知おき下さい。